

「草野球の聖地・阿南」へ大きな一歩

第1回全日本生涯還暦野球大会が開催される



全国の野球愛好家が集結

いくつになっても生涯現役で野球を楽しみたい。全国各地で盛り上がりを見せている生涯還暦野球。その全国大会「全日本生涯還暦野球大会」(全日本早起き野球協会主催)が、新たに創設されました。そして、記念すべき第1回大会が、平成28年11月18日から20日までの3日間にわたって、JAAグリアなんスタジアムとあななんアリーナで開催されました。全国から各地区を代表して、60歳以上の野球愛好家約200人が阿南市に集結。「健康と親睦」を合言葉に白球を追いかけ、心地よい汗を流していました。

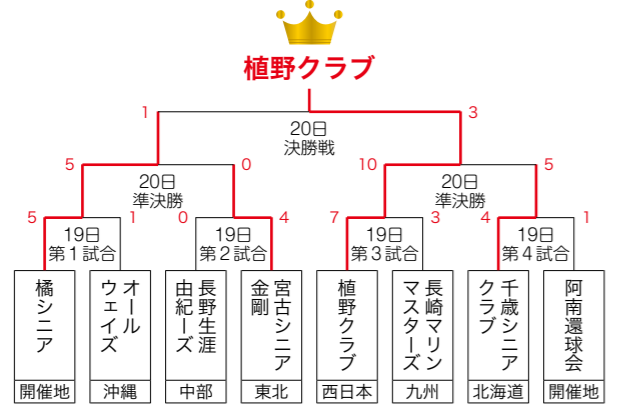
開催地に阿南が選ばれた理由

平成19年6月に「野球のまち阿南推進協議会」を創設し、野球を産業振興へと結びつけた取組を推進しています。また、全日本早起き野球協会の事務局が本市にあることから今大会の開催が実現しました。これまでも本市で西日本生涯還暦野球大会を実施した実績がありますが、全国を対象とした大会は初めてです。「草野球の聖地・阿南」としての大きな一歩となりました。

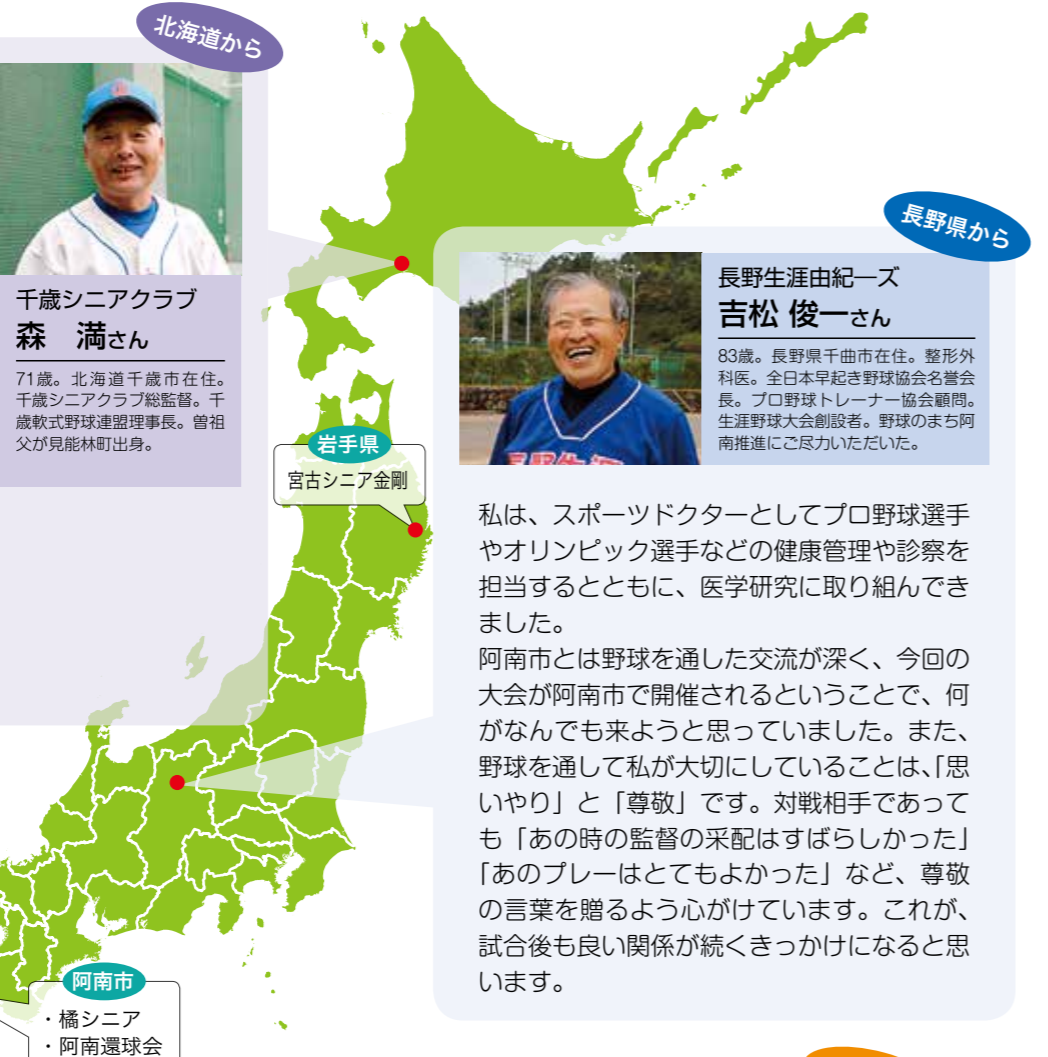


大会のようす

大会初日は盛大に交流会を開催し、2日目から試合が行われました。全国各地から集った8チームが熱戦を繰り広げるとともに、チームの垣根を越えた交流の輪が広がっていました。また、徳島ままブラスmanamanやABO60による演出で大会に花を添えました。試合はトーナメント戦で行われ、植野クラブ(高知県)が優勝、橘シニア(阿南市)が準優勝を果たしました。試合結果は次のとおりです。



私の曾祖父が見能林町出身なので、阿南市は非常に思い入れの深い地です。これまでに3回ほど訪れましたが、今回は約10年ぶりです。本当に久しぶりなので、この日が来るのをずっと楽しみにしていました。今回、縁があり、北海道代表として来られたことをうれしく思います。阿南市のスタッフや他の選手など、たくさんの方が温かく迎えてくれました。この時期、北海道では雪が積もっているため、野球大会はありません。野球ができるのは、ありがたいですね。野球を通して生まれた出会いとつながりを今後も大切にしていきたいと思います。



北海道から
千歳シニアクラブ
森 満さん
71歳。北海道千歳市在住。千歳シニアクラブ総監督。千歳軟式野球連盟理事長。曾祖父が見能林町出身。

長野県から
長野生涯由紀一ズ
吉松 俊一さん
83歳。長野県千曲市在住。整形外科医。全日本早起き野球協会名誉会長。プロ野球トレーナー協会顧問。生涯野球大会創設者。野球のまち阿南推進にご尽力いただいた。

私は、スポーツドクターとしてプロ野球選手やオリンピック選手などの健康管理や診察を担当するとともに、医学研究に取り組んできました。阿南市とは野球を通じた交流が深く、今回の大会が阿南市で開催されるということで、何があっても来ようと思っていました。また、野球を通して私が大切にしていることは、「思いやり」と「尊敬」です。対戦相手であっても「あの時の監督の采配はすばらしかった」「あのプレーはとてもよかった」など、尊敬の言葉を贈るよう心がけています。これが、試合後も良い関係が続くきっかけになると思います。

沖縄県から
オールウェイズ
普久原 朝啓さん
61歳。沖縄県那覇市在住。オールウェイズ代表。平成26年に野球観光ツアーに参加。次回大会の第2回全日本生涯還暦野球大会の運営に携わる。

平成26年10月に「野球観光ツアー」で阿南市に来ました。その時の手厚い歓迎とおもてなしや、すばらしい球場で野球ができたことが、とても印象に残っていました。今回、その阿南市で開催されるということで参加させていただきましたが、やはりすてきなところですね。まち全体で野球を盛り上げているところは、沖縄県でもぜひ広めたいと思います。来年は、沖縄県で第2回大会が開催されます。今回は結果を残せませんでした。次回は沖縄から優勝チームを出すために頑張ります。